

平成 27 年度

地域発 元気づくり支援金 表彰式及び活用事例発表会選定委員講評

平成 27 年 11 月 5 日 (木)

<中川委員>

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

中川と申しますが、生まれも育ちも信州とは全く御縁はございませんが、10 年近く前に安曇野市に引っ越してきましたら、御縁ありまして、安曇野市のできたての時ですが、ブランド推進室長を賜っていまして、ちょうどそのころにこの元気づくり支援金の選定委員になれとお話がまいりました。自分自身の勉強だと思いまして、できる限り今日発表になった生坂さんもそうですし、麻績さんとか、あらゆる地域で実際に元気づくり支援金をどういうふうに活用されているのかというのを、2 年 3 年かかって勉強させていただきました。

今日発表を承っていて、伝統的にその頃私が感じた御活動されている地域もありますし、まったく新しい活動事例もあって、ますます発展しているのだなあ、と嬉しく感じました。

私は、現在は松本市役所のシティプロモーション担当参事として働いていますが、先日皆様の中にも御出席いただいたかもしれません、増田寛也先生をお招きして地方創生シンポジウムを文藝春秋社と共同でやりましたが、正にこの元気づくりの活動の精神といいますか、理念といいますか、それが今流行語みたいになっている「地方創生」の原点ではないかと、たまさか増田先生と何度か打合せで、東京でお話する機会があつて、この元気づくりの件もお話しましたら、増田先生は、それは素晴らしい取組ですね、それは既に地方創生の原点ではないですか、とお褒めの言葉を頂きました。池田所長、お伝えしておきます。

その中で、シンポジウムの当日もいろんな話を頂きましたけれども、今日知事表彰を受けられた女性の活動に関しても、増田先生からももう少し広い意味でのコワーキングとしての女性の活躍の仕方というのがこれからの地方創生の中核をなすべきではないかみたいなお話もありましたし、地域が元気になるということが、消滅都市がどうのこうのって言っていますが、あんなものは恐れるに足らないので、明治の、今から約 100 年前の頃というのは日本の人口も今の半分くらいしかいませんので、それを思えば多少人口が減ったって、早い話、私たち団塊の世代が早くいなくなれば片付くだけの問題でありまして、どなたかの事例発表にありましたとおり、継続というか持続することが一番大切なことで、元気づくりの課題としては、一定の年数という規制みたいなものがありますけれど、それを過ぎてでも活動されている、それをきっかけに活動をされているという、安曇野市さんの中でもそういう団体をいくつか知っていますし、ぜひとも今日受賞された皆さんも、今後とも長く引き続いて御活動ください。また機会ありましたら私も勉強に伺いますので、その節はよろしく願います。おめでとうございます。

<畑井委員>

松本大学観光ホスピタリティ学科の畑井と申します。よろしく申し上げます。本日は素晴らしい活動の発表と、分かりやすい説明をありがとうございました。私もこの元気づくり支援金の選定に携わって、そう日が長いわけではなくて、昨年初めてこの選定に関わらせていただいて今年で2年目でございますので、正直右も左もよく分からなくて、ひょっとしたら皆様の方が地域のことに詳しくかったり、実際に活動されていて地域づくりとか地域に関する取組に詳しい方が多いかと思えますけれど、選定に関連していくつかお話をさせていただきたいと思えます。

まず、それぞれの事業ですね、今日4つ団体の方達にお話を頂きましたので、その各論の方の話をさせて頂いて、全体を通じて今、気になっているところを2つめとしてお話をさせていただきたいと思えます。

まず、ココノチカラ松本支部様から、県知事賞を受けた団体様ですけれども、女性の就業支援というのは様々な団体、もちろん公的なセクションはそうですし、私的なセクションもそうだと思うのですが、いろいろなところがいろいろな形で取り組んでいる分野です。そういう分野にありながらも非常に目を引きまして、例えば短時間の就労に焦点を当てた雇用機会の創出イベントですとか、通常こういった説明ではフルタイムとか、どうしても前提として長く働くという方々に焦点を当てたイベントが多いわけでございますけれども短時間に焦点を当てているということ、なおかつそれに向けて事前の調整等々をされているというですね、非常にちょっと他のところより手間暇かかって、また視点も面白いなというような取組がされていたというのが評価のポイントとなったと思えます。

次の麻績村のデゴイチの修復事業に関しましては多数の参加者、小さい子から御年輩の方々まで色々な方達がお集まりになって地域の資源をもう一回復活させようという取組だったと思うのですが、ゆくゆくはそれが地元に対する愛着に繋がって、小さい子たちが地域に根付いてくれるという意味で言うと、非常に重要な取組だったと思っております。せっかく今回そういった形で修復作業が進んだと思えますので、今度はこれを使ったソフトの事業として更に有効な地域資源として活用していただけるように御尽力いただけたらと思っております。

次にYAMAKOI・穂高山麓に熱気と活力をもたらす会でございますけれど、圧倒的な集客力といいますか、そこは何らかの仕掛けだったりネットワークみたいなものがあると思うのですが、地域活性化の起爆剤として非常に効率的なものをコンスタントにやっていて、なおかつ集客も相当数していると、また他地域への波及モデル性も非常に高いということで高い評価を得たということだと思えます。

最後の上生坂夢の里山の会ですけれども、私実はこのタイプの取組が結構好き

でございます、地域の課題を複合的に捉えているというか、名産品の開発をして、さらにそれに雇用の開発も絡めて、若い人たちをさらにそこに組み込んでですね、どんどん組織として、活動として大きく広げていくという取組というのは、実は個人的な好みで、昨年もこうした取組があってですね、非常にいいなと思ったわけでございますけれども、最初は小さい芽かもしれませんが、どんどん育ててもらって活動を活発にしていればなと思います。

もうひとつは全体を通じてという話でございますけれども、YAMAKOIプロジェクト様のシートの中でもひとつございました、連鎖と継続というお話でございます、事業の継続性というのは素晴らしい事業であればあるほど、今後も続けて行って頂きたいというふうに思うのです。事業の継続ということを考えたときに、昨年は実はこの場で事業を続けていくためには経営の資源、自由、人、モノ、金、情報の、「人」の話をさせていただいたわけですが、毎年同じ話をしていても仕方がないので、今年は「お金」の話に焦点を当てて最後話をさせていただきたいと思います。

御存じのとおり元気づくり支援金というのは、地域の方々達がそれぞれの地域にある課題というものを見つけて、最終的には自分達で自立しながら地域づくりを進めていく、そういったものを後押しする存在であるというふうに思っております。もうちょっと噛み砕いて言うと、支援金の役割というのは、それぞれの事業が継続できるように、資金面でバックアップをするという事だと思っております。ここで、非常に大切なのは、あくまでもバックアップ、後押しであって、それぞれの事業が円滑に事業として立ちあがって継続していくための後押しをするということです。先ほど、中川委員の方からもございましたけれども、そういう意味から支援金の支援期間というのは数年の区切りをつけさせて頂いて、実は今回表彰になられている団体も、麻績村さん以外は皆さん複数年度支援金を受けているはずですが、一方で、様々な地域に活動に関わる活動とか取組とかを見ていると、支援金ばかりではないのですけれども、世の中には様々な補助金とか助成金とかがあってですね、ややもするとそういった様々な補助金とか、助成金等に注目する、取得することに行ってしまうっていて、本末転倒なケースが散見されている気がしています。また、もうひとつの形で、補助金とか助成金というものがないと事業として成立し得ないみたいな活動というのも、一方であったりします。当然ですが、人がいなければ事業が続かないのと同時に、お金がなければ事業が続けられないので、当たり前と言えば当たり前なのですが、だからと言って補助金とか助成金とかがないともう事業ができません、お手上げです、というのも、ちょっとおかしな話でございます、ゆくゆくはその事業というものを何らかの形で自走させていくというか、自立させていくということが絶対的に必要で、その補助金に対する依存構造というか、依存体質みたいなものを持っている団体が少なからずあったりするように感じています。やはりこれはちょっと本末転倒

な話で、地域づくりを進めるとか地域の活動を進めていく上では、必ずそこから脱却しなければいけないというのが重要な課題だと思っています。今回の選考の中でも、例えば申請はしてみたのだけれど途中でやめちゃいましたとか、予定されていたのだけれど事業できませんでしたみたいなケースが実は年々ちょっとずつ増えてきていて、それがちょっと問題ではないのかという話が出ました。各事業を進めていく中で、支援金の位置付け・役割というものをどういうふうに考えていくべきかという事を、やはりそれぞれの団体でしっかり考えていただくことが非常に重要なポイントですし、これから支援金にチャレンジする様々な方々達にも頭の片隅に支援金はいくまでも最初のスタートアップの後押しをするためのものであって、ゆくゆくは真の意味で自立した状態になることを目指すために、ここら辺かな、というポジションを明確にさせていただくという事が重要なのかなと思っている次第です。どういう形で何かをやってみるとい意味で言うと、人とお金ですね、これは欠かすことのできないものですし、それを支援するという意味で支援金が機能するのであれば、我々にとっても非常にありがたいことだと思いますし、この支援金がこれからも地域の様々な活動に活かされて、それぞれの地域が今よりちょっとずつ元気になってくれるといいなと思います。

今後とも、今回表彰された事業の方々始め、今回支援金にチャレンジさせていただいた各団体の方々が、それぞれの事業に対して御尽力いただけたらなと考えている次第です。簡単ではございますけれど、これでコメントは終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。